

開催報告書

Symposium Report

人と動物の共生およびSDGs推進シンポジウム 2024
Symposium on Human-Animal Coexistence and SDGs Promotion 2024

「ペットとの暮らしを活用する豊かな社会 —それを可能にする環境整備—」

“A rich society utilizing life with pets
—Creating an environment that makes this possible”

2024年

10月27日(日) 13:00~16:00

会場 神戸ポートピアホテル「偕楽の間」

主催 公益社団法人 Knots

Date: Sunday, October 27, 2024

Venue: Kobe Portopia Hotel, Kairaku Room

Organizer: Public Interest Incorporated Association Knots



アクア (神)
Akua (God)



ブカ・コモ (扉)
puka komo (Door)



ハウオリ (幸せ)
Hau'oli (Happiness)



マハロ (感謝)
mahalo (Appreciation)



クレアナ (責任)
kule.ana (Responsibility)

「ペットとの暮らしを活用する豊かな社会ーそれを可能にする環境整備ー」 開催報告書

概要

- 名称：人と動物の共生およびSDGs推進シンポジウム2024
『ペットとの暮らしを活用する豊かな社会ーそれを可能にする環境整備ー』
- 開催日：2024年10月27日（日）13:00～16:00
開催場所：神戸ポートピアホテル 偕楽の間
- 主催：公益社団法人Knots
- 特別協賛：マスターズライフ株式会社 神戸ジェームス山 中楽坊
- 協賛：株式会社ピーアンドピー浜松／株式会社福祉開発研究所／株式会社ティエスコポレーション／株式会社商船三井さんふらわあ／株式会社ラ・シヨエット
- 助成：公益財団法人中内カコンベンション振興財団
- 協力：NPO 法人老いの工学研究所／新日本カレンダー（株）ペピイグループ ペピイ・ハッピープレイス TAMATSUKURI／社会福祉法人神戸海星会 グループホームうみのほし魚崎
- 後援：環境省／兵庫県／神戸市／一般財団法人神戸観光局／公益社団法人日本医師会／一般社団法人神戸市医師会／公益社団法人日本動物病院協会／公益社団法人日本獣医師会／一般社団法人兵庫県獣医師会／公益社団法人神戸市獣医師会／公益財団法人日本動物愛護協会／公益社団法人日本愛玩動物協会／公益社団法人日本動物福祉協会／社会福祉法人神戸市社会福祉協議会／公益社団法人全国有料老人ホーム協会／公益社団法人全国老人福祉施設協議会／一般社団法人シルバーサービス振興会／一般社団法人全国旅行業協会／一般社団法人日本旅行業協会／兵庫県弁護士会／神戸商工会議所／多可町商工会／株式会社高齢者住宅新聞社
- 告知協力：神戸北の坂ホテル／ホテルプラザ神戸／六甲山アスレチックパーク GREENIA／宮崎カーフェリー株式会社／FARM CIRCUS／阪九フェリー株式会社
- 対象：自治体関係者／動物関連事業関係者／まちづくり関連事業関係者／学生／一般
- 来場実績：91名

【プログラム】

《はじめに》主催者趣旨説明

《第1部》

講演「動物が人にもたらす健康効果」

講師：谷口 優 先生（国立研究開発法人 国立環境研究所 主任研究員／地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター 協力研究員）

《第2部》

人とペットが幸せに暮らせる環境整備をどのように行うか？

事例発表①「高齢者とペットの居場所事例調査」（NPO 法人老いの工学研究所／公益社団法人Knots）

事例発表②「ペットツーリズムの推進」（一般財団法人 神戸観光局 専務理事 中西 理香子 氏）

事例発表③「IT が可能にする飼い主と地域を繋ぐ環境整備ーWan!Pass の取り組み事例からー」（ペッツオーライ株式会社 代表取締役 小早川 齊 氏）

人と動物の共生および SDGs 推進シンポジウム 2024『ペットとの暮らしを活用する豊かな社会ーそれを可能にする環境整備ー』を開催するにあたり、新しい視点での研究と事例発表についての提案にご理解をいただき、特別協賛のマスターズライフ株式会社 神戸ジェームス山 中築坊様をはじめとする、多くの企業・団体からご支援を賜りました。こうした視点での発表が、今後の新たな社会システム構築への第一歩となり、次の計画へと結びつきます。この場を借りて、改めて御礼申し上げます。

また、開会に先立ち、赤坂動物病院名誉院長・柴内裕子先生と、同院長・柴内晶子先生より祝電を賜りましたので、ご紹介させていただきました。



報告の詳細につきましては、ウェブサイトの専用ページもご参照ください。

https://knots.or.jp/2024/11/symposiun2024_241027-report/

主催者である公益社団法人 Knots 代表理事富永佳与子が司会を務めさせていただき、動画を交えながら、本シンポジウム開催の趣旨説明を行いました。

まもなく、阪神・淡路大震災から 30 年を迎えます。あの震災では、日本で初めて組織立った動物救援事業が行われ、兵庫県、神戸市、神戸市獣医師会、日本動物福祉協会阪神支部を中心に 1,545 頭の保護・譲渡が行われました。その一年後に譲渡動物の調査が行われ、成犬・成猫も新しい飼い主に懐き、幸せに暮らしていたことがエビデンスとなり、行政の施設でも、成犬・成猫の譲渡が始まりました。この後、各地に動物愛護センターが設置され、1999 年には、動物保護法から動物愛護法へと改正となり、人と動物の関係は、制度の大きな転換点を迎えました。動物愛護法は、動物愛護の法律と思われがちですが、その先に「人と動物の共生する社会の実現を図ること」を目的としています。



司会の富永佳与子代表理事

神戸市では、日本初の「神戸市人と猫との共生に関する条例」を制定され、「神戸市人と猫との共生推進協議会」を設置。官民協働で共生社会実現を進めています。Knots は、この協議会の監事を務めています。

そして、2021 年、公共の施設としては初めて「共生」と名付けられた「こうべ動物共生センター」が設置されました。民間に運営が業務委託され、現在、Knots が管理運営業務を受託しています。

私共 Knots は、阪神・淡路大震災の譲渡動物の調査に参加したことをきっかけに設立され、来年 25 周年を迎えますので、私たちの想いを講演会に先立ちましてお伝えしたいと考え、「こうべ動物共生センター管理運営業務」のプロポーザルの際に作成した動画を再編集したものをご観いただきました。提案内容で実施できているものもあれば、引き続きチャレンジしているものもあります。

当法人の事業は多方面にわたりますが、一言でお伝えすると、市民ひとりひとりの課題を「涙💧マーク」に例えると、どうすれば「ハート❤️マーク」な解決にできるのかに取り組むということに集約されます。

今回のシンポジウムでは、💧は「高齢・単身社会を迎えている今の日本の課題」であり、この課題に対して、「子どもの数より多いペットたちとの暮らしを活用」して、❤️にできないかというテーマです。講演と事例発表を通して、「人もペットもずっと一緒に幸せに暮らせる街」を実現する方策を皆様と考える機会といたしました。

《第1部》講演「動物が人にもたらす健康効果」

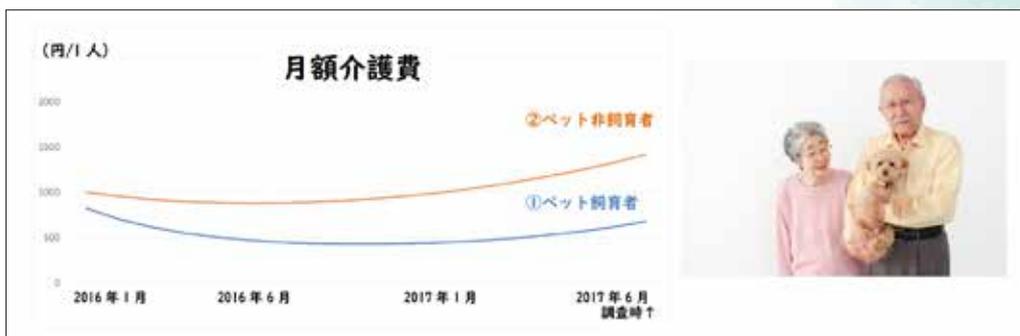
谷口 優先生 (国立研究開発法人 国立環境研究所 主任研究員／地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター 協力研究員)

最初に、「健康」の概念について「元気で長生き」、つまり「健康長寿」と定義し、健康を阻害する要因としては、体の予備力が低下し、身体機能障害に陥りやすい状態となる「フレイル」や認知症をはじめとした「老年症候群」が挙げられました。

また、伴侶動物が健康長寿に及ぼすフレイルに関する研究では、「犬と生活しているシニアは、犬を飼っていない人に比べてフレイル発生リスクが約20%低い」ことがわかりました。

谷口先生がオーストラリアで実施した「伴侶動物の種類で死亡発生リスクが異なるのか？」という研究で、猫、鳥、魚ではなく、「犬と生活している人は、死亡リスクが23%低い」ことが明らかになったことが今年8月に発表されました。2019年に10の研究結果を統合して分析された研究データでは、「犬の飼育者は非飼育者に比べて死亡リスクが24%低い」という結果が報告されているそうですので、谷口先生の実験結果と合わせてみても、犬の飼育者の死亡リスクが低いことがわかります。

「伴侶動物の有無で要介護または死亡発生リスクが異なるのか？」という研究については、「犬と生活しているシニアは、自立喪失（要介護・総死亡）発生リスクが約45%低い」ことがわかったそうです。また、「伴侶動物の有無で認知症発症リスクが異なるのか？」についても追跡期間を延ばして調査をされたところ、「犬と生活しているシニアは、要介護認知症発症リスクが40%低い」ことがわかりました。



さらに、「伴侶動物の有無で社会保障費（医療費・介護費）が異なるのか？」という研究の結果もご教示いただき、医療費については有意差がなく、「ペットがいる群は、いない群に比べて月額介護費が半額」との結果が出たそうです。

猫の飼育に関しては、多くの研究で猫が愛猫家に心理的に良い効果を与えていることがわかっているので、引き続き研究を続けていきたいと語っておられました。

最後に、オーストラリアの公共交通機関や店舗などでペットを受け入れている状況等もご紹介いただきました。そして、どうすれば伴侶動物を迎えたいシニアがペットと共に暮らすことができるのか方策を考えていきたいと締め括り、第2部の事例発表へとつないでいただきました。



感謝状贈呈式

第1部終了後、人と動物の共生と獣医療の発展に広く貢献された加藤元先生（ダクタリ動物病院総院長／コロラド州立獣医科大学客員教授兼アンバサダー）と柴内裕子先生（赤坂動物病院名誉院長／公益社団法人日本動物病院協会相談役）に、Knots から感謝状を贈呈させていただきました。お二人には、「こうべ動物共生センターの「セラピー研究フィールドアドバイザー」をお務めいただいております。

加藤先生、柴内先生が共に歴代の会長を務めてこられた日本動物病院協会は、1978年創立の後、1987年に社団法人許可を取られました。新たな日本の「人と伴侶動物の共生」がここから始まったと言っても過言ではありません。この後、第一次ペットブームがあり、室内飼育へと転換していきました。この頃に阪神淡路大震災が起こります。

日本動物病院協会は、動物病院を核として地域への社会活動を推進されており、共生社会の実現に必要な、二つの大きな柱をお持ちです。ひとつは、人と動物のふれあい活動（CAPP: Companion Animal Partnership Program 活動）で、高齢者施設、病院、学校などを訪問するボランティア活動です。全国の会員動物病院を中心に、飼い主のボランティアと行っており、現在まで23,000回以上実施され、無事故で継続されています。もうひとつは、ヒューマン・アニマル・ボンド（人と動物の絆）の理念に基づいた「家庭犬しつけインストラクター」の認定です。このインストラクター養成コースは、日本でも最高レベルとして知られています。

神戸には、この講座の1期生の方が多くいらっしゃいます。「こうべ動物共生センター」では、1期生の村田香織先生、中塚圭子先生、高山美左先生、2期生の笠木恵子先生にご指導を賜っており、その後が続かれている近藤悦子先生、渡辺ひろこ先生にもご尽力いただいております。神戸にこのような専門家がおられ、サポート体制があることが神戸での共生プラットフォーム実現の可能性を高めています。

会場には、現在の公益社団法人日本動物病院協会会長の宗像俊太郎先生と、元会長の細井戸大成先生がお越しくださっており、皆様にご紹介させていただきました。

加藤先生は会場に駆けつけてくださり、柴内先生にはオンラインでご登場いただき、「いつでもどこかでだれかが努力をしないと物事は叶いません。人類の宝物である伴侶動物との幸せな暮らしを支えていけるよう共に努力いたしましょう」とのメッセージを賜りました。



宗像俊太郎先生 加藤元先生 細井戸大成先生



柴内裕子先生

第1・2期生



村田香織先生 中塚圭子先生 高山美佐先生 笠木恵子先生

第1期生に続いておられる先生方



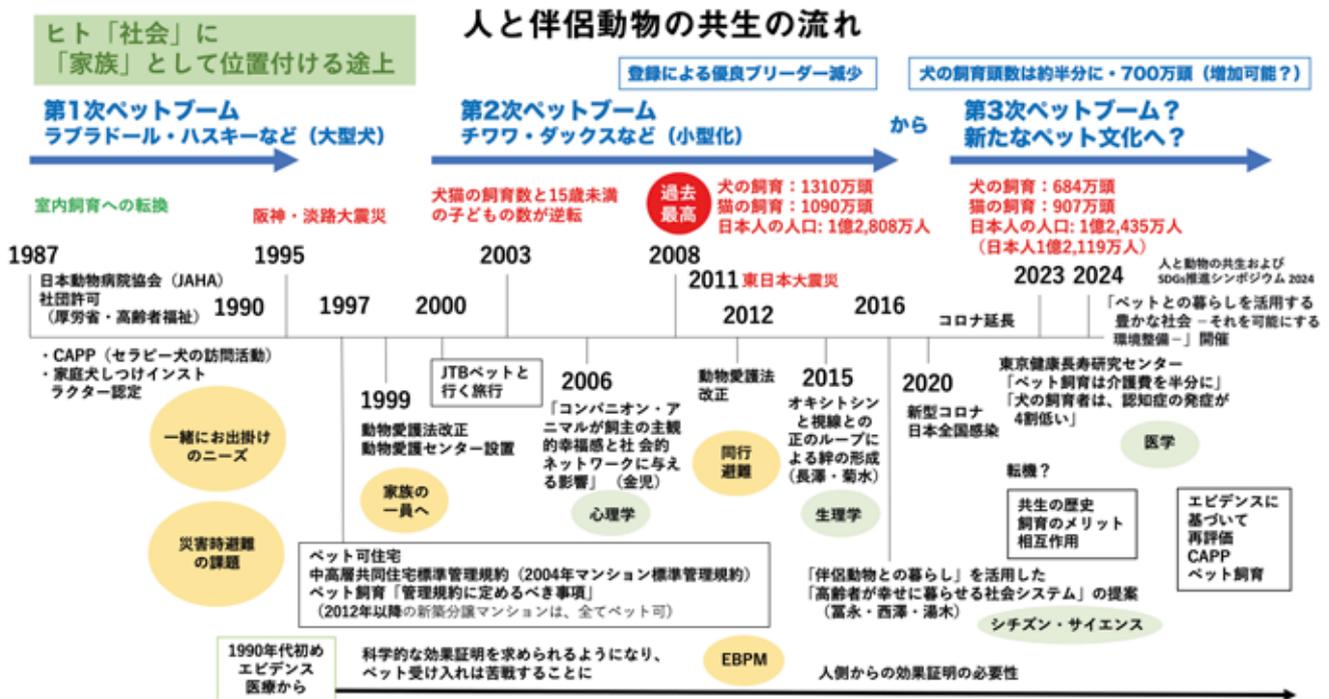
近藤悦子先生 渡辺ひろこ先生

《第2部》 人とペットが幸せに暮らせる環境整備をどのように行うか？

第1部の谷口先生の講演を受け、第2部では「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会のひとつのモデルとして、「人もペットもずっと一緒に幸せに暮らせるハート♥マークの街」を実現する方策を考えました。事例発表に先立ち、人と伴侶動物の共生の流れを、年表形式でご紹介させていただきます。

人とペットとの共生の歴史を考える上で、現在は、ヒトが作った「社会」という場に、彼らを「家族」として位置付けていく途上にあると考えられます。

第1次ペットブームから、ペットとのライフスタイルは大きく変化しました。家の中で一緒に過ごし、一緒に車に乗ってお出掛けをし、カフェやお宿でも一緒に過ごすようになります。このペットブームを牽引したのは、当時30代～50代の方々です。この世代は、しつけやペットのケアにも気を配り、新たなペットとの暮らしを開拓してきた方々とも言えます。



2006年の金児先生の論文発表の時点では、欧米とは違って、「ペット飼育は、飼い主の幸福感にマイナスの影響がある」という結果が出ました。「自分の大切なペットが社会に受け入れられていない」と感じるのが原因でした。2012年には、新築マンションの管理規約は、基本的にペット可となります。

2015年の麻布大学・長澤先生、菊水先生のオキシトシン研究では、「人間の赤ちゃんは愛着行動に視線を使い、見つめ合うと幸せホルモンのオキシトシンがお母さんと赤ちゃんの双方に作用し、飼い主とワンちゃんの間も同様で、生理学的にはワンちゃんは飼い主と子どもと同じ絆を持っている」ことがわかりました。

2016年に当法人の富永代表理事らが発表した論文では、「ペットを飼育する高齢者は、生活に不満を持つ人が少ない」という結果が出ており、受け入れ環境や研究が進んだことが飼い主さんを幸せにしてきた側面もあると思います。

そしてこの世代が、いよいよ高齢者施設に入居する時代がやってきました。これまでは、番犬として外飼いだっただけの方が高齢者施設の利用者の中心でしたが、ここで、ペットに対する高齢者の意識の大きな転換点を迎えることになると思います。

事業者の皆様には、💧は「お客様のニーズ」、そして、♥は、「ビジネスチャンス」と言い換えた方がわかりやすいかも知れません。抄録にも記載致しましたように、ひとつの大きな課題として、「高齢者とペットの居場所」が浮かび上がってきているのです。

《第2部》 事例発表①「高齢者とペットの居場所事例調査」

川口 雅裕 氏 (NPO 法人老いの工学研究所) / 公益社団法人 Knots

<公益社団法人 Knots 発表>

Knotsで行った事例調査の一つ目は、神戸市の市営住宅についての聞き取りです。飼育ニーズの増加を受け、小規模戸数住宅で市がアンケートを実施し、入居者全員の同意が得られた住宅のみペット飼育可住宅へと転用を行っています。現時点では6ヶ所がペット飼育可能な住宅になっており、今後も増やしていく予定だそうです。

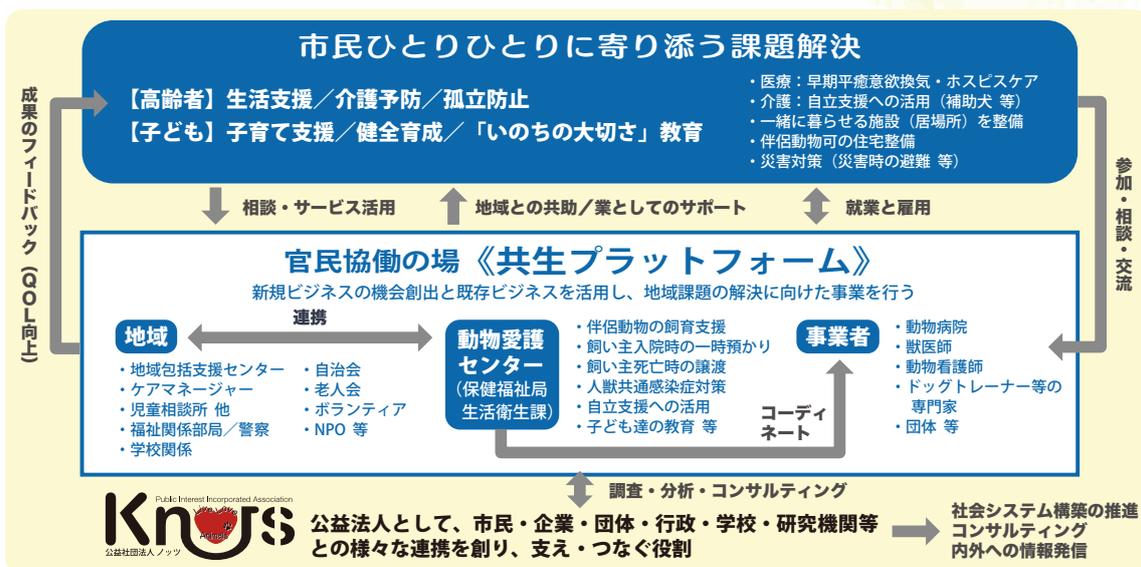


訪問した有料老人ホームでは、大阪のペット共生型有料老人ホーム「ペピイ・ハッピープレイス TAMATSUKURI」の事例を紹介しました。こちらの施設は、動物病院や動物の専門学校に隣接し、動物の手厚いケアも受けられます。入居者の9割がもともとペットを飼育されており、1割は入居後に飼育をされているそうです。万が一飼い主が飼育できない状況になった場合、ペットの行き場がなければそのままホームで飼育してもらうことができ、施設が最後まで責任を持ってお世話をすることも可能だそうです。ペットの年齢や性格等を考慮して、新しい

飼い主を探す対応もされています。

訪問した際、ちょうど、お散歩に出られる飼い主さんと出会いました。わんちゃんが施設のスタッフ皆さんに愛され、適正飼養のサポートを得ながらの快適な暮らしに満足していることをお聞かせくださいました。そのお姿を拝見して、ずっと一緒に安心して暮らせることを心強く感じておられる様子が伝わってきました。

必要な方が必要な支援を受けられる ペットとの共生プラットフォームを構築



- ・緊急時に「誰をどのように支援すれば良いのか」事前に準備することを可能にする
- ・様々な世代の様々な課題解決を図ることができるコミュニティの力の醸成

さらに、現在、施設としてペットを飼育している高齢者の方のグループホーム、神戸の「グループホームうみのほし魚崎」の事例を紹介しました。以前、職員が飼えなくなった犬を飼育していたのを思い出し、利用者と職員の相互に良い影響があるのではと考え、施設でまた犬を飼うことを提案されたところ、利用者やそのご家族から反対の声は出なかったそうです。現在、リリーちゃんがいることで職員のストレスが減り、この半年間、離職希望する職員がいないそうです。今後は法人内の他の施設でも犬を飼うことを推進し、ゆくゆくはペットを連れて入所できる施設を作りたいという希望もお聞かせくださいました。

谷口先生のご講演からも学んだように、高齢者がペットと暮らすことで介護費が抑制されたり、認知症の発症リスクが軽減されるなど、健康寿命の延伸に効果があることがわかってきているにもかかわらず、現状ではペットを手離さざるを得ないという問題もあります。例えば介護保険等でペットの世話が対応可能になったり、官民連携によって飼い主の入院時などの預かりサポートを行うなど、ペットを手離さなくても良い方法を選択できる社会の仕組みづくりが必要不可欠となってきます。

私たち Knots は、必要な方が必要な支援を受けられるペットとの共生プラットフォームを構築することで、地域の課題解決やコミュニティの再構築に貢献できると考えています。特に防災の面では、プラットフォームでの日常的な情報共有が、緊急時に「誰をどのように支援すれば良いか」事前に準備することを可能にします。支援の必要な方が、別の面では支援を提供する側にもなり、様々な世代の様々な課題解決を図ることができるコミュニティの力の醸成に貢献します。



<NPO 法人老いの工学研究所 理事長 川口 雅裕氏発表>

東京と関西合わせて 8 物件、計 963 戸（1 物件あたり 120 戸のマンション）を展開している分譲型高齢者住宅「中楽坊」は、個々への手厚い支援・サービスとは真逆の考え方で、常駐スタッフは 2～3 名いて必要な情報提供などは行いますが、主体性を持ち自立して暮らすことをコンセプトにしています。レストランはセルフサービス、物件により様々なサークル活動があり、活動運営も入居者の方々が自分たちで行っています。

全ての物件の管理規約において大きさや頭数の制限はありますが、「ペット飼育可」としており、全体の 11%にあたる 105 戸でペットが飼育されています。最初の物件から約 8 年経過した現在に至るまで、全ての物件でペットが原因となるトラブルは 1 件もなかったそうです。

ペットが原因のトラブルが全く起こっていない理由は、入居者がコミュニティを大切にしているからではないかと考えられます。コミュニティが大切だから、ペットを飼っている人はコミュニティの仲間に迷惑をかけないように配慮し、飼っていない人は飼っている人の気持ちを理解しようとして、何かあっても話し合っ解決しようとするのです。この「中楽坊」というコミュニティでの良好な人間関係があるからこそ、ペットに対しても寛容であり、ペットとの共生が実現できているのではないかと発表されました。



ペットとの共生社会構築にあたり、大変示唆に富むお話しでした。

前ページ「事例発表 ①」 ➡ 「事例発表 ②③」へのつながり

前述の第 2 部「事例発表 ①」では、高齢者が「**ペットと共に最後まで安心して生活できる住宅面の環境整備**」について考えました。次に示す「事例発表 ②③」では、「**街に出るための環境整備としての側面がある**」と考えペットツーリズムに注目しました。

谷口先生の疫学調査では、「**犬と散歩をして、社会的交流を持つ**」ことが健康効果のポイントになっています。ペットツーリズムによる「**高齢者が安心して犬とお出掛けしやすくなる仕組みづくり**」は、**その地域の方にも活用されるものであり、「健康で楽しく温かいハート♥マークの街づくり」としても機能**します。

《第 2 部》 事例発表②「ペットツーリズムの推進」

中西 理香子 氏（一般財団法人 神戸観光局 専務理事）



中西 理香子 氏

神戸市の取り組みとして、神戸観光局で令和 4 年度から開始された「**ペットと旅する神戸**」事業についてご発表いただきました。

自然と都市が共存する神戸は、海、街、山のアクセスが容易なエリアで、ペット飼い主の幅広いニーズに対応できることから、神戸市の公式観光サイト「**Feel KOBE**」内に特設ページの設置等を行い、神戸にあるペットと一緒に遊べる場所や、宿泊できるホテルなど、ペットフレンドリーなスポットを紹介してこられました。ペット受入れ状況のヒアリングを行い、受入れ可能な宿泊施設や観光施設を QR コードと共に掲載した「**ペットと旅する KOBE**」マップも作成・配布され、シンポジウム当日も来場者の皆様にお持ち帰りいただきました。

令和 5 年度には、犬のおでかけメディアである「**おでかけわんこ部**」と連携し、できるだけリアルな情報を提供する取り組みを開始し、情報発信をさらに強化されました。

11 月 11 日（ワンワン・ワンワン）に「**ペットと旅する KOBE**」特設ウェブサイトの本格始動させ、専用 Instagram アカウントを開設。以降、六甲山系のハイキングを楽しむ再度公園を起点としたモデルコースや、六甲・有馬温泉でゆっくり贅沢日帰りコース、小豆島観光協会との広域連携で 2 泊 3 日のモデルコースを紹介されています。令和 6 年度には、須磨海浜公園を含むおでかけ日帰りモデルコースを公開されています。

神戸のペットツーリズムの課題としては、「**ペットに関する正確な情報提供**」「**ペットと共に旅行する際のマナー啓発**」「**地域の観光事業者との連携の強化**」を挙げられます。店舗の受入れ条件を正確に情報発信し、受入れる店舗等、ペット連れの方、ペットと連れていない一般のお客様全員がハッピーに過ごしてもらうためには、マナー啓発も重要です。



ペット連れでお出かけできる環境作りは観光振興だけでなく、そこに暮らす市民がペットと共に街に出やすくなることにも繋がり、健康寿命の延伸と共に地域の人たちのコミュニティを再構築する地域振興にもつながっていきます。ペットとの絆を深めることで、心身が健康になり、街が元気になるという点でもペットツーリズムは重要であると結ばれました。

《第2部》 事例発表③ 「ITが可能にする飼い主と地域を繋ぐ環境整備—Wan!Passの取り組み事例から—」

小早川 齊氏 (ペッツオーライ株式会社 代表取締役)



Knots の正会員でもあるペッツオーライ株式会社 代表取締役 小早川 齊氏からは、人と動物の関係においてアナログな部分が多い中、IT を活用してどのようにペットツーリズムを盛り上げていくかを発表していただきました。愛犬とのお出かけを支援するアプリ「Wan!Pass」は、リリースから 2 年で利用施設数が 3,000 施設以上となり、各種メディアで取り上げられています。

まず、全国の「Wan!Pass」ユーザーに「ペットオーナーのお出かけに関する調査」を実施され、愛犬との主な移動手段は「自家用車」を利用する人が最も多いという結果から、旅の出発から目的地までの間のサービスエリアのドッグラン等でリフレッシュできるような環境作りと街づくりが重要で、これからのペットツーリズムには、移動・宿泊・食事・観光等が連携することも大切であると述べられました。

「Wan!Pass」を活用することで愛犬と同伴可能な店舗などを可視化できるだけでなく、狂犬病予防接種や混合ワクチンの証明書、入店・宿泊等の利用同意書もアプリ経由でデジタル手続きが可能となっています。利用可能な店舗等へのチェックイン機能もあります。また、日本はトレーニングの基礎を学ぶなど、最低限の飼育マナーが全体に浸透しておらず、各自が自分の感覚で「うちの犬は大丈夫」という具合にしつけの基準を決めてしまっている状況にあるため、アプリ内に「Wan!Pass 認定士」がしつけレベルを認定する仕組みを作り、顧客マナーの状況についても可視化できるようにし、入店条件を設定することを可能にされています。利用料金は、登録される施設等や利用するペットオーナー双方が無料となっています。



ペッツオーライ株式会社は、山梨県富士川町とペット共生社会の実現に関する連携協定を締結されており、整備したドッグランに「Wan!Pass」を活用されたり、東京から富士川町へのバスツアーも実施されました。また、軽井沢観光協会との連携においては、軽井沢町の愛犬と同伴可能な店舗を「Wan!Pass」に掲載し、観光客の回遊の促進・愛犬と飼い主のマナーの啓発を目的として業務提携を行っておられます。

『全国の「Wan!Pass」ユーザーを対象に実施した防災に関する調査結果』もご報告いただき、災害時の同行・同伴避難が可能な場所やルールなどを把握している人が少ないという結果を受け、ペット防災の機能についても充実させていかれるとのことでした。

今回のシンポジウムでの講演や事例発表においては、データに基づいたお話を多く聞かせていただきました。小早川氏の事例発表からも、IT を有効に活用していくことは、「アナログである動物との暮らしを遠くするものではなく、寧ろ高めていくもの」と改めて、環境整備の中で IT の持つ可能性の大きさも知ることができました。

謝辞

「ペットとの暮らしを活用できる環境整備を行うことで、人もペットもずっと一緒に幸せに暮らせる街」を実現するというテーマに、多くの企業・団体等の皆様のご支援を賜り、皆様と共に考える機会を提供させていただくことができ、ご来場の皆様からも、今後につながる下記のようなご意見を賜りました。参加された講師の方々やご関係の皆様との今後の交流も実現し、皆様のご協力により、大変大きな成果をあげることができたと感じております。ご協力を賜りました皆様に、改めて厚く御礼申し上げます。

皆様のお気持ちに心より感謝し、引き続き、
💧を❤️にできるよう、どのように社会の仕組みを作っていくかという課題に向き合い、様々な立場の方々との連携を深め、必要な方が必要な支援を受けることができる「ペットとの共生プラットフォーム」構築に貢献し、この仕組みを通じて様々な「結び目=Knots」を作るお手伝いをし、地域の課題解決やコミュニティの再構築にも繋げていければと考えております。

引き続き、皆様方のご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



本シンポジウム開催にご協力くださった皆様での集合写真

【ご来場いただいた皆様アンケートより抜粋】

- ・人と犬との関係性について最新の研究成果を知ることができて良かった。
- ・犬を飼っていて感じている効果を科学的に裏付け検証されており、行政はこの結果を高齢化社会において、医療、介護政策に生かすべきだと思う。
- ・地域の行政や事業者等々の協力、他者を受け容れる気持ちが共生の実現の課題だと思った。
- ・事例発表でペットと入居できる場所が増えてきていることがわかった。
- ・『互助』『共助』の大切さを再認識した。
- ・アプリをフル活用した“移食遊泊”の面でのサポート、防災に関するサポートなど感銘を受けた。
- ・日本中に周知すべきと思った。
- ・もっとたくさんの人に知ってもらえたら良いと思った。
- ・業種の全く違う自分でも参加させていただき良かったです。

など、今後につながる多数のご意見をいただきました。

決算報告書

《収入の部》

自己資金	850,000
協賛金・寄附金	850,000
助成金	300,000
合計	2,000,000

《支出の部》

会場費	704,940
講師謝礼	80,000
広報費	121,656
印刷製本費	90,780
記録費	60,319
交通費	256,557
事務局費	586,747
雑費	99,001
合計	2,000,000

(単位：円)

【制作物】



抄録 (全 24 ページ/表紙)



告知チラシ第1版 (表)



告知チラシ第2版 (表)



告知チラシ第1・2版共通 (裏)

【プレスリリース】

- ・1回目 2024年7月1日「参加登録開始のお知らせ」
- ・2回目 2024年10月11日「開催のお知らせ」

【掲載紙等】

- ・公益社団法人日本動物病院協会『News Letter』2024年7月号 (2024年6月30日発行)
- ・公益社団法人日本愛玩動物協会『with PETs』299号 (2024年9月15日発行)
- ・株式会社高齢者住宅新聞社『週刊高齢者住宅新聞』772号 (2024年9月18日発行)

【ウェブサイト/SNS等】

- ・専用ウェブサイト
https://knots.or.jp/2024/01/symposiun2024_241027/



- ・公益社団法人大阪府獣医師会
<https://www.osakafuju.or.jp/>



- ・イベントバンクプレス
<https://www.eventbank.jp/index.do>



・ひょうご SDGs Hub

「ひょうご SDGs Hub」とは、持続可能な地域の実現するために、県内の企業や団体などの多様な主体が連携し、社会的課題の解決と地域活性化の両立を図る公民連携組織です。



〒650-0032 兵庫県神戸市中央区伊藤町 110-2 神戸ポートビル旧居留地 7F-11
 TEL : 050-3702-8058 (月~金 9:00 ~ 17:00) FAX : 050-3730-0738
 MAIL : info@knots.or.jp ウェブサイト : <https://knots.or.jp/>

